



# ゆーごーけん

2010. 8. 20

マーク制作：関知磨子（秋津コミュニティ：蚊帳の海一座）

（融合研のホームページ） <http://yu-go-ken.net/>

（事務局）〒285-0843 千葉県佐倉市中志津7-17-4（TEL&FAX）043-463-1929

## 本号の内容

○巻頭言；先入観の無い町で ～宮崎稔の人体実験～ 融合研会長 宮崎 稔

1 「第14回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」の開催

※新しい試みが多数あります。

2 役員会報告

①「第14回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」の開催

②総会について

- ・出席できない場合の意思表示
- ・役員選挙について
- ・会計報告について
- ・その他

3 事務連絡

①通信による総会の案内；

富士宮フォーラムに参加できない方は、紙上およびホームページでの参加・意思表示ができます。

※ 印刷物会員は、同封の葉書で返送してください。

※ メール会員は、ホームページから返信してください。

②会員継続について

③2012年度以降のフォーラム開催の立候補・役員立候補を受け付けます。

※2011年度は、大阪支部に決定しました。

## 巻頭言

### 先入観の無い町で ～宮崎稔の人体実験～

融合研会長 宮崎 稔

世は、ますます高齢化社会へ向かっております。厳しい時代・難しい時代を懸命に生きてきた人々には、どのような老後がふさわしいのでしょうか。また、どのような老後の人生を望んでいるのでしょうか。私たちは、どのようなことをすべきでしょうか。

私は、数年前に妻の母（義母）を引き取り、一緒に生活しておりました。義母としては、「まだまだ一人でも生活できる。」と言っておりましたが、火を使うことや足の衰え等で引き取ることが最善と考えたからでした。私はまだまだ元気ですし、義母もいよいよ大変になったので引き取るというよりも、元気があるうちに新しい生活に慣れていただくことは、今後のためにも良いことであろうとの賢明な判断でした。私はとても良いことをしたつもりで、いっしょけんめいに婿殿の役を果たしておりました。血のつながった娘のところで、優しい婿さんと一緒に生活は、きっと義母にとっても快適な生活になる筈でした。

ところが、大きな誤算が続きました。義母は、地元の老人会にもほとんど顔を出しません。趣味でもあり得意な手先を使った手芸の活動もあまりしなくなりました。娘にはわがままを言い、言い争いも少なくありません。何もしない(させない)と呆けてしまうだろうと、妻がしたほうが速くて確実なことであっても、義母ができそうな仕事は責任を持ってやっけていただくようにという配慮もしました。しかし、それも失敗が続くのでした。妻は、元気なときはとても知的に活動していた母のそういう姿を、とても寂しそうに見ておりました。だんだん外出も少なくなり、自分の時間はゴロゴロと寝ているような日々が増えてきました。

やがて義母は認知症が進み、夜も外出をするようになり、家で面倒を見るだけではとても大変になってきました。そこで、ディサービスに連れて行ったり、時には施設で夜を過ごしていただいたりするということも併用するようになりました。そうしてとうとう施設に入所してほとんどの日々を過ごすということになりました。義父の場合は、体は寝たきりでしたが、最後まで意識は正常でした。また自分の両親は早く亡くなりましたが、二人とも認知症にはなりません。それだけに、体は元気で行動が危険という義母の様子は対応が難しいものがありました。義母の認知症の進行は、予想外に一気に進んだように思いました。やがて義母は、もしかしたら幸せな最後とは言えなかったのかもしれないという悔いを残すような形で亡くなりました。

いま思い起こしてみるに、賢明な判断であったと思った「引き取る」ことが、認知症を早めたのではないかとも思うのです。考えてみれば、距離にして20キロメートル程度とはいえ、全く知らない土地です。仲間もいません。頼りは娘だけです。若い世代でさえ新しい土地に馴れるのはとても大変です。それなのに、高齢になってからの初めての土地は、そうとう厳しいものがあつたのだらうと思います。でも一人暮らしを続けていたらどんな危険が待っていたか。今、高齢の身内をもつ人の多くが、そのジレンマに陥っている話を多く耳にします。

さて、そういう私は、高齢化率がトップクラスの離島の地で生活して間もなく2年になります。老人だけの一人暮らしの人や、高齢化の夫婦だけという家庭がたくさんあります。「主人が亡くなったら息子のところへ行くつもりなの。」と言っている人や、「墓があるから一人になっても離れられないんだよ。」という人たち、また「施設には入れないよ。高いから。」という人たちだらけです。「島に残ってくださいよ。」とは思っても、それぞれの事情がありますから、そういう考えを変える事はできません。移住をして行った人は、馴れない土地でどのような日々を過ごすことになるのでしょうか。受け入れた側はどのように迎え入れてあげたらよいのでしょうか。

私は、誰も知る人のいない土地に身を投じてみました。私がどんな人間なのかということもほとんど分かってもらえない初めての土地です。私もそうですが、受け入れる側も先入観の無い町です。誰も知らない土地で、人はどれだけ自分をしっかり持っていられるのだろうかという挑戦でもあります。義母よりも若いですし、4月からは妻も一緒です。義母よりずっと条件は良い筈です。

そこで、できるだけ地区に溶け込もうとしています。たとえば、地区の寄り合いや清掃活動、さらには氏子でもないのに神社の行事にも顔を出しています。「お茶を飲みに来ないか。」と言われれば断ることなく参加したり、学校との学社融合には他の人よりも積極的に関わったりしています。しかしそれでも、ある程度は分かっていたことですが、馴れない土地で暮らすのは難しいということを実感しています。だから、そういう意識のないままに移住した人にとっては、新しい土地での良い老後は難しいのではないかと考えられます。私は、自分自身を実験台とするようなこの体験を選びました。それは、高齢化時代の学社融合によるまちづくりへのあり方に対する実験になるのではないかとも思っているからです。

学社融合によるまちづくりを志向しているわたしたち融合研では、さまざまな実践事例をもっていますが、同時にさまざまな課題もあります。長い年月を地元で過ごしてきた人でさえ、自分の良さを発揮して人とのつながりを結ぶのは難しいことです。高齢者の生き甲斐になるだろうと思われる学社融合の活動は、海士町に限らず決して進んでいるとは言えない現状があります。他から移住してきた人たちに対しては、受け入れる側の問題もありますし、誘われても入っていかないという本人の問題もあることでしょう。でもこれまでは、学校教育の観点から考えられることが多かった学社融合について、もっともっと一人の「人間の生涯学習の場」、「人間らしく生きる場」という観点から考えることが求められなくてはならないと思うのです。学校支援地域本部事業も、「高齢者支援地域・学校本部事業」と衣替えをするくらいの気持ちが必要なのではないかと思うのです。

だからこそ、より良い老後のための学社融合のありかたという面からも、皆で考えてみませんか。

# 1 「第14回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」の開催

以下の要領で、富士宮市での融合フォーラムが開催されます。このフォーラムの大きな特徴は、大会前日に、14回目のフォーラムで初めての試みである「中学校での学社融合授業」が全ての学級で行われることです。どうぞ、ご都合をつけて多くの方がご参加くださることをお待ちしております。

また、分科会の発表者は、これまでも増して各方面で活躍をいらっしゃる方が引き受けてくださいました。内容の濃い話し合いになるものと思われまます。

参加の申し込みは、できるだけ以下のホームページから御願ひします。受付と同時に「参加票」をお送りします。<http://yu-go-ken.net/>

※ また、文書や電話での申し込みも受け付けております。

〔問い合わせ先〕 090-6173-8986 宮崎雅子まで。

## 第14回融合フォーラム2010 in 富士山のまち富士宮大会実施要項

- 1 目的 学校と家庭・地域社会が連携・融合しあって行う教育・学習について、日頃取り組んでいる方々が、その実践の成果と課題を広く情報交換をすることによって、今後の学校教育の充実、生涯学習の進展及び学校を活かしたコミュニティの発展に資することを目的とする。
- 2 主催 学校と地域の融合教育研究会
- 3 共催 富士宮市教育委員会
- 4 主管 第14回融合フォーラム2010 in 富士山のまち富士宮実行委員
- 5 後援 静岡県教育委員会、富士宮市校長会、  
社団法人農山漁村文化協会、日本教育新聞社、こども環境学会、日本セーフティプロモーション学会 日本市民安全学会、警察政策学会
- 6 日時 平成22年10月3日(日):本大会9:20~16:10(1日のみ)  
平成22年10月2日(土)13:30~16:05  
芝川中学校「授業公開及び講演会」  
○授業:学社融合を中心とした授業公開(全8クラス)  
○講演会:生徒会、PTA研修部合同開催「SYD出前講座」  
(文科省後援/子どもゆめ基金助成事業)  
◆参加をご希望の方は、大会申込と合わせて申し込んでください。
- 7 会場 富士宮市役所(特大・710・721・722・410会議室)  
受付は、7階ロビーで行います。
- 8 テーマ 融合で拓く未来社会  
～家庭・地域と共に歩む学校づくりを目指して～
- 9 日程本大会:10月3日(日)  
9:00-9:20 受付  
9:20-9:40 開会式  
学校と地域の融合教育研究会会長 宮崎 稔  
大会実行委員長 渡邊喜久  
来賓 富士宮市教育長  
9:40-11:30 全体会《基調提案》4分科会の代表事例の発表  
《提言》「新しい公共」と学社融合…岸 裕司(融合研副会長)10分  
《代表発表》
  - ① 食育と学社融合◇渡辺孝秀(静岡県富士宮市役所フードバレー推進室長)
  - ② 学校からのアプローチと学社融合 ◇栢木 修(大阪府池田市立池田中学校教頭)
  - ③ 地域からのアプローチと学社融合 ◇江口勝善(千葉県四街道市まじやりんこ代表)
  - ④ 家庭・地域と学校をつなぐPT(C)A活動 ◇長堂和男(沖縄県那覇市立銘苺小学校PTCA初代会長)

11:40-12:30 昼食～ふれあいタイム～(イベント・情報交換等)

12:30-14:10 分科会

①食育と学社融合

- ◇コーディネーター:野澤令照副会長
- 中村和憲(松山市P連会長)
- 春日良樹(上越市立里公小学校長)

②学校からのアプローチと学社融合

- ◇コーディネーター:油谷雅次副会長
- 一色真司(代々木高校校長)
- 伊藤知恵子(厚木市立清水小学校総括教諭)

③地域からのアプローチと学社融合

- ◇コーディネーター:宮崎稔会長
- 大塚清美(富士宮市読み聞かせの会会長)
- 工藤健二(青森県県庁南地区社会福祉協議会会長)

④家庭・地域と学校をつなぐPT(C)A活動

- ◇コーディネーター:岸裕司副会長
- 前田学浩(高知県南国市立稲生小学校PTCA前会長)
- 太田直宏(岡山市立宇野小学校PTA元会長・岡山YMCA総主事)
- 伊藤世津子・佐藤久美子(富士宮市立貴船小学校長・同地域コーディネーター)

14:30-16:00 シンポジウム

- ◇コーディネーター:永谷貴弘(融合研プログラム開発委員長、  
立正大学非常勤講師)
- テーマ「家庭・地域と共に歩む学校づくりを目指して」

16:00-16:10 閉会式

10 参加費 1000円(資料代、昼食代)

11 宿泊(10月2日です) 富士宮グリーンホテル(富士宮駅前、徒歩1分)  
※シングル5800円、ツイン10500円、トリプル15000円  
※申込は事務局、支払いは個々で。(希望の部屋を確保できない場合有り)  
※10月3日の宿泊についてはご相談下さい。

12 総会 10月2日(土)18時～18時半 場所 美やじま

13 懇親会 10月2日(土)18時半～ 場所 美やじま 会費 5000円

なお、前日の10月2日(土)は、以下のように芝川中学校の授業参観・PTA教育講演会と融合研の研修会を兼ねた催しも開催されます。授業では、学社融合を取り入れた内容で、全ての学級で地域の方等との学社融合授業が実践されます。

**【富士宮市立芝川中学校 公開授業・講演会のご案内】**

○10月2日(土)公開授業(第5校時)13:30～14:20

○国語(3年2組):フォト俳句(俳句の会)

社会(3年1組):消費生活(消費者団体)

数学(2年2組):未定(TTT、1人は卒業生)

理科(1年1組):地震防災(前芝川町長)

英語(2年3組):未定(TTT、1人は他校教師を予定)

道徳(1年2組):人権(人権擁護委員)

家庭(2年1組):ニジマス創作料理(養鱒組合、富士宮市フードバレー推進室)

特別支援学級 :未定(富士宮市特別支援学級補助員)

○講演会:生徒会、PTA研修部合同開催「SYD出前講座」

(文科省後援/子どもゆめ基金助成事業)

## 2 役員会報告

「第14回融合フォーラム in 富士山のまち富士宮」の開催に向けて、昨年の年末から数度にわたって役員会が開かれてきました。また、決算・予算、役員案、事業報告・事業計画等も報告され、承認を得ました。

## 通信による総会

規約に基づく年1回の融合研の総会はフォーラムの際に行っています。しかし、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表示をしていただけるようにということで、通信による返信をもって総会に参加していただくということにさせていただいております。その返信分とフォーラムでの総会出席者を合わせて成立の運びとなります。

フォーラムに参加されない方は、

○インターネットから

○印刷物会員の方は、同封の葉書で意思表示をしてください。

## 総会の議案

- (1) 平成21年度事業報告
- (2) 平成21年度決算報告
- (3) 平成22年度事業計画(案)
- (4) 平成22年度予算(案)
- (5) 平成22・23年度役員(案)

### (1) 平成21年度事業報告

- 21. 9. 13 やる一んセミナー 場所;青少年会館
- 21. 9. 20 第13回融合フォーラム in 神奈川 場所;日産先進技術センター
- 21. 10. 29 OSAKA きっずな一研修会 場所;クレオ大阪中央
- 21. 11. 3 役員会 場所;富士宮 岩將
- 21. 12. 26 役員会 場所;パンゲア
- 22. 5. 30 千葉支部大会 場所;OVTA

### (2) 平成21年度決算報告

- 収入の部……………1,640,764円
  - (内訳) 繰越金 1,217,327円
  - 会費(3000円×137) 411,000円
  - 記念誌代(2000円×6) 12,000円
  - 利息 437円
  
- 支出の部……………352,047円
  - (内訳) 通信費 10,980円
  - 事務用品 21,347円

ドメイン料	4.100円
印刷代	4.900円
年報代(送料含む)	238.560円
会議費	12.000円
フォーラム補助	60.160円

○ 残高・・・・・・・・・・・・・・・・1.288.717円

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

監査 常田 洋

小山みさ

### (3)平成22年度事業計画 (案)

- 22. 10. 3 (日) 第14回融合フォーラム2010in 富士宮  
場所 富士宮市役所
- 23. 5 千葉支部フォーラム 場所 千葉市 OVTA
- (予定) やる一んセミナー

### (4)平成22年度予算 (案)

- 収入の部・・・・・・・・・・・・・・・・1.899.017円
- (内訳) 繰越金・・・・・・・・・・・・・・・・1.288.717円
- 会費(3000円×200)・・・・・・・・・・・・600.000円
- 資料代・・・・・・・・・・・・・・・・10.000円
- 利息等・・・・・・・・・・・・・・・・300円
- 支出の部・・・・・・・・・・・・・・・・1.899.017円
- (内訳) 通信費・・・・・・・・・・・・・・・・20.000円
- 会議費・・・・・・・・・・・・・・・・20.000円
- 事務用品・・・・・・・・・・・・・・・・50.000円
- 年報代・・・・・・・・・・・・・・・・250.000円
- ドメイン料・・・・・・・・・・・・・・・・10.000円
- 交通費・・・・・・・・・・・・・・・・100.000円
- フォーラム補助・・・・・・・・・・・・100.000円
- 予備費・・・・・・・・・・・・・・・・1.529.017円

## (5) 平成22・23年度役員案

会長	宮崎 稔	海士町学校支援地域本部
副会長	岸 裕司	習志野市秋津コミュニティ
同	油谷雅次	大阪府貝塚市社会教育委員
同	野沢令照	仙台市教育委員会
同	渡辺喜久	静岡県富士宮市立芝川中学校
監事	小山みさ	市川市コミュニティクラブ
同	常田 洋	市川市コミュニティクラブ
プログラム研究開発 委員長	永谷貴弘	大学講師
子ども教室部会長	野澤令照	仙台市教育委員会

東北・北海道支部長	野澤令照	仙台市教育委員会
北関東支部長	戸叶俊文	館林市職員
千葉県支部長	常田 洋	市川市コミュニティクラブ
神奈川県支部長	青木信二	厚木市森の里中学校PTAパートナー隊
大阪府支部長	榎谷佳純	大阪府PTA協議会元副会長
島根県支部長	渋谷秀文	益田市小学校
高知県支部長	森本智香	書店経営
事務局長	宮崎雅子	子どものまち副代表

※事務局員についても、全員留任の予定です。

※上記の内容について、「ご意見」「ご質問」のある方は、富士宮フォーラムでの総会までに、事務局へご連絡ください。議題としてとりあげさせていただきます。

○印刷物会員には、同封した葉書を返送していただきます。メール会員は、ホームページから返信してください。

※いずれの返信締切日も、集計作業の都合上9/25(土)(当日着)までとさせていただきます。

### 会員継続の更新について

※手続き完了日；富士宮フォーラムまで。

融合研は、職場の配置転換等で会員としての活動が難しくなった人や個人的な諸事情で会員の継続が困難になった人を、むりやり会員として引き留めておくということをしない（いわゆる「幽霊会員をつくらない」）ということが確認されています。したがって、毎年、「今年も会員の継続をするかどうか」ということの確認を行っています。事務手続きが煩雑になりかもしれませんが、「通信による総会」の案内と一緒に返信をつけてありますので、以下のようにお願いします。

○メール会員は、ホームページからお返事ください。

○郵送会員は、同封の葉書でお返事ください。

※退会する方も、ご一報ください。

※継続する方は、年会費（3,000円）の納入もよろしく御願います。

※すでに、22年7月以降に手続きをお済みの方は、連絡しなくても結構です。

### 3 事務連絡

#### (1) 2011年度以降のフォーラム開催の立候補を受け付けます。

2010年度の融合フォーラムは、静岡県富士宮市に決定し準備が進んでいます。多くの会員の参加をお待ち致します。また、会員以外の方へもお誘いください。

それから2011年度は、大阪支部が2度目の開催をすることで決定致しました。それ以後のフォーラム開催について、近隣の人と相談したりして手を挙げてください。自分ひとりだけでもその意向がある方は、「事務局へとりあえず相談」してみてください。現在のところ大阪支部の中に、その意向を持っている会員がいるようで、今後検討されるようです。

「2012年度以降なら」という地域でも構いません。「今は、まだあまり推進されていないから」という地域でも結構です。フォーラムを機会に、融合の推進が図られたという地域もごじます。どうぞ、奮ってご応募ください。

#### (2) 2010～2011年度の役員の立候補を受け付けます。

一部の役員を除き、多くの役員は発足以来ほぼ同じメンバーです。会の活性化を図る意味からも新しい血の導入も必要とされています。役員になって融合研を改革したいというご意思のある方は、是非、「事務局まで」意思表示をしてください。総会で、承認を得て決定となります。また、「2年後なら」という意思のある方もお待ちしております。

#### 編集後記（のようなもの）

個人的な事ながら、会長が入院をすることになり、フォーラムの準備や会報の発行等が滞るという羽目になってしまいました。会員みなさまに、お詫び致します。幸い、経過が順調ということですので、これからは通常のように活動してできるものと思います。

今号は、富士宮フォーラムの内容が中心でした。会報は、メーリングリストと共に会員の声をつなぐ大事な手段ですので、13年目を迎えた今、融合研の地道な実践のために会員の意見を歓迎します。どうぞ多くのご意見をお寄せください。（M）